

日本工業大学百年記念館／ライブラリー&コミュニケーションセンター

正会員 小川次郎君

午後遅くに訪問したためなのか、ややどんよりと曇った天候のためか、キャンパスの奥に現れたガラスのタワーを目にした時には不思議な感じがした。垂直と水平でシルエットで構成される学校建築のパターンから言えば、不思議な角度で立ち上がった半透明のガラス面やその後ろに見える斜めの鉄骨柱が照明に照らされて、周辺の敷地と建築が一体化しているように感じられ心地よかった。

この建物は学園 100 周年を記念して建てられた図書館・情報関連施設なので、その性格から単なる図書施設というよりは記念建築の要素が含まれている。平面は L 字型の交点に高層棟が配置されていて、1 階部分はインターネットコーナー、映像学習コーナー、マルチメディア教室とともにカフェがある。空間的には高層棟の北側コーナーを 6 層分の吹き抜けにすることにより高層と低層を結びつけて多様な空間を生み出している。それらを可能にしているのは、構造の鳥かごのような 300mm 角の柱、梁、ブレースで、それ自身がファサードデザインとなっている。ガラスについても強化ガラス間の接着フィルム層にガラスビーズを挟み込んだ合わせガラスで場所により混合比率を変えている。また、室内環境面でもこの吹き抜け空間を利用して 1 階と 5、6 階に設置したダブルガラスジャロジーの開閉で自然換気を行っている。エントランスからこの吹き抜け空間のある高層棟までは周辺敷地と合わせてやや傾斜した床面であるが、この傾斜した床は高層棟の 8 階までも続き、単なる事務所スペースと違う演出をしている。

どちらかと言えば住宅空間が続いているような感じで、どの場所でも暖かい雰囲気に含まれている。高層棟はセキュリティシステムを工夫してすべて開架書棚を採用している。さらに住宅のような薄い MDF 板で組み合わせた本棚は、わざと塗装ムラを出すことによりアットホームな感じを演出している。照明計画も書架の上部に組み込まれた照明器具の光を天井に反射させる間接照明となっている。この建物のファサードは北西、北東のガラス面ばかりが目立つが、南西、南東の壁面を特注アスロック壁にすることで日射負荷を大幅に減らすとともにランドマークとして不思議な表情を与えている。環境面では吹き抜け空間による自然換気の他にもガラス面に水噴霧することで周囲温度を低下させて冷房負荷を低減している。空調システムでは全面的なチャンバー方式の床吹き出しにより、床面での冷温輻射効果で着席時間の長い図書館の室内環境を快適に保っている。訪問した日も 1 階のエントランスを含めて学生たちが落ち着いた表情で読書をしたり、モニターを見ている姿が印象的だった。この建物は傾斜ガラス面や壁面で記念性のある表情を演出してキャンパスに活気を与える一方で、緻密なディテールや空間構成はアットホームで快適な室内環境を創出している。

よって、ここに日本建築学会作品選奨を贈るものである。